

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成28年2月10日

**【四半期会計期間】** 第144期第3四半期(自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)

**【会社名】** セーレン株式会社

**【英訳名】** SEIREN CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役 会長 川 田 達 男

**【本店の所在の場所】** 福井市毛矢1丁目10番1号

**【電話番号】** (0776)35 2111(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 執行役員 グローバル総務・経理・人事本部長 勝 木 知 文

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区南青山1丁目1 1 (新青山ビル東館)

**【電話番号】** (03)5411 3411(代表)

**【事務連絡者氏名】** 東京本社総務部主管 庄 司 稔

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第143期 第3四半期 連結累計期間	第144期 第3四半期 連結累計期間	第143期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(百万円)	75,843	79,532	103,766
経常利益	(百万円)	5,124	6,642	7,329
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	2,998	4,791	4,898
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	5,141	1,637	9,935
純資産額	(百万円)	61,715	66,935	66,539
総資産額	(百万円)	105,326	111,066	109,543
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	50.20	80.20	82.00
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	50.16	79.96	81.90
自己資本比率	(%)	58.1	59.7	60.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,151	7,276	8,598
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,316	7,203	2,948
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,810	47	2,721
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	8,429	8,991	9,951

回次		第143期 第3四半期 連結会計期間	第144期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	17.07	31.46

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業会計結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな「事業等のリスク」の発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、堅調に推移する企業業績を背景に、雇用情勢や個人所得に改善は見られるものの、個人消費においては未だ回復の兆しが見られない状況が続いております。世界経済に目を向けると、中国や新興国の経済成長の減速、原油価格の大幅下落など、懸念材料は増し、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

そのような環境の中、当社グループでは、「21世紀型企業への変革！」を中期方針に掲げ、変化し続ける経営環境においても、常にお客様のニーズに応え、かつ安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、“新規事業の創出”と“グローバル事業の拡大”を柱とした中期事業戦略に着手しております。併せて、生産性向上や業務の効率化・改善、徹底した経費削減による収益力強化を図るとともに、戦略遂行に必要な人材育成及び組織機能の拡充など、企業体質の強化に取り組んでおります。

当期より、“新規事業の創出”において、原糸から縫製までの繊維製品の一貫生産機能と技術開発力を活かした「製品化販売の拡大」を推し進めております。その一環として、昨年10月、繊維製品の縫製販売事業（アパレル分野、産業資材分野）を展開する連結子会社のアルマジヤパン(株)を分割し、産業資材分野の縫製販売事業に特化したセーレンソーテック(株)を新設し、アパレル分野の縫製販売事業に特化するアルマジヤパン(株)は商号をセーレンアルマ(株)に変更いたしました。それぞれの事業分野に特化した技術開発、商品企画、生産合理化を進め、グループの製品化販売の拡大を図ってまいります。

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高795億32百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益61億39百万円（同35.7%増）、経常利益66億42百万円（同29.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益47億91百万円（同59.8%増）となり、営業利益、経常利益及び純利益においては、過去最高となりました。

セグメントの概況は次のとおりであります。

車輻資材事業では、国内事業は、“革を超える新素材”「クオーレ®」や瞬間消臭機能の「イノドール®」、防汚機能の「エラッセ®」などの快適素材に加え、ステアリング用の夏冬快適素材「クオーレモジュール®」が初めて量産車に採用されるなど、車輻の室内空間を快適にする高付加価値商品群が売上高を伸ばしました。また、新型の高級車に採用されたビスコテックス加飾パネルは、当初計画を上回る発注を受け順調に推移しました。これら新規高付加価値商品の量産化が順調に推移し、国内事業は前年同期比で増収・増益となりました。一方で、引き続き原料、染料の価格高騰がありましたが、調達改善や売価アップへのご協力及び当社独自の整流生産活動による効率化やVAなどで、コスト増の一部を吸収することができました。海外事業は、自動車販売台数が好調に推移する米国市場向けの商材が、アメリカ、タイ及び中国生産で売上高を伸ばしました。2013年末に量産を開始したインド及びインドネシアの両拠点については計画通りに事業進捗しておりますが、当面、償却などの費用が先行するため、利益面での貢献は2017年以降になる見通しです。また、工場建設中の新拠点メキシコにおいても、今年6月の量産開始に向けた生産準備と新規受注開発を進めており、インド及びインドネシア同様、費用が先行しております。さらに、製品化販売の拡大戦略のもと、昨年5月に中国河北省において自動車用シート材の裁断・縫製・販売事業を行う新会社を設立しました。当事業の売上高は454億80百万円（前年同期比10.5%増）、営業利益40億27百万円（同27.1%増）となりました。

ハイファッション事業では、国内で、高いファッション性の商品を手ごろな価格で販売する海外ファストファッションブランドの台頭に消費者の節約志向が相まって、当社グループの主要顧客である国内アパレルブランドを取り巻く環境は引き続き厳しい状況です。当社グループのファッション衣料向けテキスタイル及び製品販売事業においては、小ロット・短納期・在庫レスで製造する独自の生産システムのビスコテックスをはじめ、糸から縫製までのグループ一貫機能をフル活用した高感度な差別化商品の企画開発に注力し、製品化販売の拡大による収益性の向上を図っておりますが、当第3四半期におきましては、厳しい市況環境の影響を受け、前年同期比で減収・減益となりました。また、ウインター市場縮小の影響を受け、国内スポーツ衣料向けのテキスタイル販売事業で売上高を落としました。その一方で、当社グループのニット技術と加工技術を駆使した差別化素材の販売拡大が進み、インナー衣料向けのテキスタイル販売事業が売上高を伸ばしました。海外事業では、海外子会社の Saha Seiren Co., Ltd. (タイ)における原糸から製品までの一貫生産において、生産合理化や品質改善効果に加え、新規受注が伸び、着実に利益改善が進んでおります。当事業の売上高は196億45百万円(前年同期比4.0%減)、営業利益5億38百万円(同677.8%増)となりました。

エレクトロニクス事業では、繊維と金属の複合化技術により差別化を高めた電磁波シールド材「プラット®」の製品化販売が拡大しました。また、K Bセーレン(株)の高性能導電系「ベルトロン®」や高性能ワイピングクロス「ザヴィーナ®」が売上高を伸ばしました。また、スーパー繊維の「ゼクシオン®」及び「グラディオ®」についても徐々に用途開発が進み採用件数が増えております。さらに、航空宇宙分野においても開発案件が増え、新たな事業領域としての可能性が具現化してまいりました。海外では、中国市場における工場等の生産設備投資の減少を受け、世聯電子(蘇州)有限公司(中国)の繊維機械販売が売上高を落としました。当事業の売上高は36億21百万円(前年同期比6.8%減)、営業利益4億47百万円(同36.7%増)となりました。

環境・生活資材事業では、消費増税以降、停滞を続けておりました新設住宅着工戸数には持ち直しの動きが見られております。ハウジング資材では、優れた省エネ性能をもつ遮熱型ハウスラップ材「プレミアムサーモ」や遮熱型ルーフィング材が売上高を伸ばしました。新たな事業領域の環境・土木分野においては、独自の繊維技術により商品化した防草シート「グラスガード®」が市場から高い評価を受けて採用実績を重ねております。一方、健康・介護事業では、介護報酬の改定に伴い、介護施設等で一部、商品の買い控えの動きがあり、目下、事業環境は厳しい状況です。また、オフィス・インテリア資材は、市場の在庫過多により受注が低調となりました。当事業の売上高は53億39百万円(前年同期比4.2%増)、営業利益4億99百万円(同2.1%減)となりました。

メディカル事業では、当社の独自技術で商品化した、繭から生まれた天然成分セリシン配合のコモエース化粧品は、自社サイトや百貨店常設店舗における販売強化に加え、今期、新規投入したプレミアム商品の販売が好調に推移し、売上高を伸ばしました。卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「デオエスト®」は、さらなる売上高拡大を図るため、顧客ニーズにマッチした新商品投入を継続しつつ、メディア展開を始めとするプロモーションに注力し、順調に販売拡大を進めております。メディカル資材では、K Bセーレン(株)の差別化原糸を用い、グループ一貫機能を活かした製品群が大幅に売上高を伸ばしました。当事業の売上高は47億46百万円(前年同期比6.3%増)、営業利益12億44百万円(同18.9%増)となりました。

その他の事業では、(株)ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業やセーレンコスモ(株)の人材派遣事業が堅調に推移しました。当事業の売上高は6億99百万円(前年同期比5.3%減)、営業利益4億24百万円(同15.8%増)となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金などの流動資産の増加により、全体で前連結会計年度末と比較して15億22百万円増加の1,110億66百万円となりました。負債の部は、借入金の純増などにより、11億27百万円増加し、441億30百万円となりました。純資産は、為替変動による為替換算調整勘定の減少がありましたが、利益剰余金の増加などにより3億95百万円増加し、669億35百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は89億91百万円となり、前連結会計年度末より9億60百万円減少しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、72億76百万円の収入（前年第3四半期連結累計期間は51億51百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益69億85百万円、減価償却費35億99百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、72億3百万円の支出（前年第3四半期連結累計期間は13億16百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出48億70百万円などによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、47百万円の支出（前年第3四半期連結累計期間は18億10百万円の支出）となりました。これは主に、借入金の純増による収入12億88百万円、配当金の支払いによる支出13億32百万円などによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は40億13百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設の計画は以下のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額（百万円）		着手年月	完成予定年月	完成後の増加能力
				総額	既支払額			
Viscotec México S.A. de C.V.	メキシコ合衆国 グアナファト州 アバソロ市	車輛資材	自動車内装材生産設備	995	-	平成27年5月	平成28年5月	200千m / 月
提出会社 新田事業所	福井県福井市	車輛資材	自動車内装材生産設備	585	52	平成27年7月	平成28年3月	100千m / 月

なお、当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	64,633,646	64,633,646	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	64,633,646	64,633,646		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年12月31日		64,633		17,520		10,834

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,520,000		
	(相互保有株式) 普通株式 365,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 59,730,000	597,300	
単元未満株式	普通株式 18,646		
発行済株式総数	64,633,646		
総株主の議決権		597,300	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) セーレン株式会社	福井市毛矢1丁目10 1	4,520,000		4,520,000	6.9
(相互保有株式) セーレン商事株式会社	福井市毛矢1丁目10 1	365,000		365,000	0.6
計		4,885,000		4,885,000	7.5

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、ひびき監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,501	12,264
受取手形及び売掛金	1 24,086	1 24,375
有価証券	-	1,000
商品及び製品	9,626	9,954
仕掛品	2,460	2,578
原材料及び貯蔵品	4,230	4,036
その他	2,625	2,513
貸倒引当金	15	10
流動資産合計	54,514	56,712
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	23,118	22,116
機械装置及び運搬具（純額）	10,389	9,891
工具、器具及び備品（純額）	436	429
土地	9,831	10,307
その他（純額）	1,407	2,414
有形固定資産合計	45,183	45,160
無形固定資産	2,280	2,020
投資その他の資産		
その他	7,588	7,194
貸倒引当金	23	22
投資その他の資産合計	7,565	7,172
固定資産合計	55,028	54,353
資産合計	109,543	111,066
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,269	14,500
短期借入金	5,430	7,344
未払法人税等	831	1,021
賞与引当金	1,214	476
その他	4,283	4,793
流動負債合計	26,028	28,136
固定負債		
長期借入金	9,586	8,694
役員退職慰労引当金	161	161
退職給付に係る負債	5,751	5,695
その他	1,474	1,442
固定負債合計	16,974	15,994
負債合計	43,003	44,130

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,799	16,799
利益剰余金	27,865	31,347
自己株式	3,928	3,918
株主資本合計	58,256	61,748
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,606	1,444
為替換算調整勘定	5,796	2,880
退職給付に係る調整累計額	277	237
その他の包括利益累計額合計	7,679	4,561
新株予約権	92	169
非支配株主持分	510	455
純資産合計	66,539	66,935
負債純資産合計	109,543	111,066

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	75,843	79,532
売上原価	58,089	59,386
売上総利益	17,754	20,145
販売費及び一般管理費	13,231	14,006
営業利益	4,523	6,139
営業外収益		
受取利息	185	210
受取配当金	83	89
為替差益	302	167
その他	139	128
営業外収益合計	711	596
営業外費用		
支払利息	82	65
その他	27	28
営業外費用合計	110	93
経常利益	5,124	6,642
特別利益		
固定資産売却益	3	7
投資有価証券売却益	0	124
抱合せ株式消滅差益	-	229
特別利益合計	3	361
特別損失		
固定資産処分損	19	18
その他	1	0
特別損失合計	20	18
税金等調整前四半期純利益	5,107	6,985
法人税等	2,084	2,154
四半期純利益	3,022	4,831
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	40
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,998	4,791

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	3,022	4,831
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	360	161
為替換算調整勘定	1,228	2,992
退職給付に係る調整額	530	40
その他の包括利益合計	2,118	3,194
四半期包括利益	5,141	1,637
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,098	1,673
非支配株主に係る四半期包括利益	43	36

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,107	6,985
減価償却費	3,394	3,599
固定資産処分損益(は益)	15	11
投資有価証券売却損益(は益)	-	124
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	2
賞与引当金の増減額(は減少)	656	737
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	64	115
受取利息及び受取配当金	269	300
支払利息	82	65
為替差損益(は益)	34	169
売上債権の増減額(は増加)	235	664
たな卸資産の増減額(は増加)	1,292	592
仕入債務の増減額(は減少)	142	536
未払消費税等の増減額(は減少)	374	382
その他	423	594
小計	6,701	9,041
利息及び配当金の受取額	262	307
利息の支払額	86	69
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	1,725	2,002
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,151	7,276
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	2,218	4,870
有形固定資産の売却による収入	11	23
投資有価証券の取得による支出	72	720
投資有価証券の売却及び償還による収入	-	174
定期預金の純増減額(は増加)	832	1,723
その他	131	86
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,316	7,203
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,301	1,650
長期借入れによる収入	-	1,500
長期借入金の返済による支出	2,071	1,861
配当金の支払額	985	1,314
非支配株主への配当金の支払額	42	18
その他	11	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,810	47
現金及び現金同等物に係る換算差額	322	980
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,348	954
現金及び現金同等物の期首残高	6,081	9,951
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	1
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	-	6
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 8,429	1 8,991

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、新たに設立した世聯汽車内飾(河北)有限公司を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
(会計方針の変更) 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。 当第3四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。 企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。 なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
1. 税金費用の計算 税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。  
 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	百万円	271百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の当第3四半期連結累計期間末残高と当第3四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	
(平成26年12月31日現在)		(平成27年12月31日現在)	
現金及び預金	9,703百万円	現金及び預金	12,264百万円
預入期間が3か月超の定期預金	1,273百万円	預入期間が3か月超の定期預金	3,273百万円
現金及び現金同等物	8,429百万円	現金及び現金同等物	8,991百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	450	7.5	平成26年3月31日	平成26年6月25日	利益剰余金
平成26年10月29日 取締役会	普通株式	540	9	平成26年9月30日	平成26年11月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月23日 定時株主総会	普通株式	661	11	平成27年3月31日	平成27年6月24日	利益剰余金
平成27年11月4日 取締役会	普通株式	661	11	平成27年9月30日	平成27年11月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車輛資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メデイ カル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	41,165	20,462	3,887	5,125	4,464	75,104	739	75,843		75,843
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	1	189			190	476	667	667	
計	41,165	20,464	4,076	5,125	4,464	75,295	1,215	76,511	667	75,843
セグメント利益	3,169	69	327	509	1,046	5,122	366	5,488	965	4,523

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 965百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用1,096百万円が含まれております。全社費用は主に、報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車輛資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メデイ カル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	45,480	19,645	3,621	5,339	4,746	78,832	699	79,532		79,532
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	7	1	319			328	398	726	726	
計	45,487	19,646	3,940	5,339	4,746	79,160	1,098	80,259	726	79,532
セグメント利益	4,027	538	447	499	1,244	6,758	424	7,182	1,043	6,139

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 1,043百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用1,116百万円が含まれております。全社費用は主に、報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な該当事項はありません。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	50円20銭	80円20銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	2,998	4,791
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	2,998	4,791
普通株式の期中平均株式数(千株)	59,736	59,744
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	50円16銭	79円96銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	45	177
うち新株予約権	45	177
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要		

2 【その他】

第144期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当について、平成27年11月4日開催の取締役会におい  
 て、平成27年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 661百万円  
 1株当たりの金額 11円  
 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成27年11月30日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月9日

セーレン株式会社  
取締役会 御中

### ひびき監査法人

代表社員 業務執行社員	公認会計士	道	幸	静	児	印
代表社員 業務執行社員	公認会計士	岡	田	博	憲	印
業務執行社員	公認会計士	松	本	勝	幸	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているセーレン株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、セーレン株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。